

〔日本紀私記〕神代雖經霖旱津以利比天利安

〔塵袋〕一霖雨トハイカホド久クフルアメライフベキゾ張銚文選ノ注ニハ三日雨ヲ爲霖ト云

ヘリ三日ヨリ久カラバ又勿論也淫雨トモ云フ歟

〔日本書紀〕神代一書曰中既而諸神噴素戔鳴尊曰汝所行甚無賴故不可住於天上亦不可居於葦

原中國宜急適於底根之國乃共逐降去于時霖也素戔鳴尊結束青草以爲笠蓑而乞宿於衆神衆神

曰是躬行濁惡而見逐謫者如何乞宿於我遂同距之

〔常陸風土記〕行方郡郡家南門有一大槻其北枝自垂觸地還聳空中其地昔有水之澤今遇霖雨廳庭

濕漉

〔萬葉集〕秋相聞寄雨

秋芽子乎令落長雨之零比者一起居而戀夜曾大寸

〔萬葉集〕十九霖雨晴日作歌一首

宇能花乎令腐霖雨之始水逝緣木積成將因兒毛我母

〔小町集〕花をながめて

花の色はうつりにけりないたづらに我身世にふるながめせしまに

〔伊勢物語〕むかし男有けりならの京ははなれ此京は人の家まださだまらざりけるときに西

の京に女ありけり略中それをかのまめ男うち物かたらひてかへりきていかゞ思ひけん時は

やよひのついたち雨そぼふるにやりける

おきもせずねもせで夜を明しては春のものとしてながめくらしつ

〔源氏物語〕十二なが雨についぢ所々くづれてなごき給へば京の家司の許に仰つかはして近

き國々の御莊の物などもよほさせてつかうまつるべきよしの給はす